

寄稿

技術士会 50 周年に向け雑感



技術士包装物流会
理事 清水啓介

技術士会 50 周年おめでとうございます。

さて、私が包装に関わり始めたのは 40 年以上前である。当時毎日振動試験を行い、チーズ包材のピンホール発生状況をレッドチェック法で際限なく調べていた。だから、中国の農薬入り餃子事件の時、真っ先にピンホールを調べるべきであると新聞社、保健所、警察、中国大使館にもメールや手紙を出した。冷凍食品包装ではチーズ包装ほど密封性はよくなく、シール部から外気が侵入する事例があり、それも原因として考えられることと、冷食包装にシール部の細かい溝やピンホールなどがあるのは当たり前の事実だからである。

ご存知の通り、中国の発表で、原因は農薬が注射器で注入されたものと分かった。当然注射器によるピンホールは確認されていたはずである。振動で開いたピンホールと注射器によるものとは形状が異なる。ピンホールを調べていれば、日本でも原因がわかったはずである。大騒ぎであったにも関わらず、そんなに難しい原因でないにも関わらず、日本では原因がわからなかった。ここに今の日本の問題が象徴されているように思われる。つまり、今の技術者やマスコミが、それだけでなく多くの人たちが、限られた範囲内だけに注視し、全体を俯瞰して見るということをしていない。だから、ピンホールがあるかもしれないという簡単なことに気が付かない。技術士会はそうであってはならない。また、全体を俯瞰してみる人を増やしてかなければならない。私も及ばずながら協力できたらと考えている。ピンホールを調べなさいという私の発信はどこにもキャッチされなかった。情報の発信は難しい。個人ではほとんど情報を取り上げてもらえない。技術士会に期待したいところである。